



北は北海道から南は名京阪神まで出荷される、JA岩井のレタス。

株張りのよい 「グリーンジャケット」は 春のトンネル栽培に最適！

JA岩井 営農指導員

染谷 篤史

⑥ (JA岩井) の概要

JA岩井管内では480戸の農家が、ネギ300ha(年間)、春レタス類300ha(2~5月どり)、秋冬レタス類300ha(10~12月どり)を作付けしています。京浜市場を中心に、北海道、東北、信越、名京阪神の主要40社への出荷となります。

レタス類は春と秋の年2作で、玉レタス、サニーレタス、グリーンリーフ、ロメインレタスを栽培しています。グリーンリーフは年間35haの栽培があり、春の作型は図の通りです。

春・秋・厳寒期どりで高評価の「グリーンジャケット」

レタス類は天候の影響を受けやすく、近年は夏の猛暑やゲリラ豪雨、冬の干ばつや大寒波などの異常気象により、品種の選定にたいへん苦慮しています。

異常気象の中でも、安定した生育でボリュームが出る「グリーンジャケット」に喜ぶ筆者。



特に、平成16年秋は台風の上陸回数が非常に多く、当産地のレタス類は冠水被害で収穫まで至らないという事態の増加で出荷量が激減しました。それ以降、天候に左右されない産地づくりに向け、タキイ種苗の協力のもと、当地に適した品種の研究、開発、導入に取り組んできました。

その中で、春のトンネル栽培でのボリューム不足が課題の一つとなっていたことから、「グリーンジャケット」を使用し、低温期から高温期へ向かう4月どりの品種比較試験を行いました。試作を依頼した生産者を交えての収穫調査では「草姿はU字形で株張りがよく、包装フィルムに入れた時の見ばえがよさそう」「トンネル内でも徒長せず、収穫幅が期待できる」「気温上昇下でも芯が短く、抽苔の心配がなさそう」など、とても高評価を得ました。この結果から、平成20年には試作農

芯は短く肋のねじれが少ないため、包装しても見ばえがすると高評価。



収穫の際にもチップバーンの少なさを実感。良質なグリーンリーフで加工にも向く。



良品のポイントは日中のトンネル内の高温対策と夜間の保温。しなやかな葉質の「グリーンジャケット」は、収穫時の葉折れも少ない。

図 JA岩井の春の作型

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	品 種
2月どり	●	●	▲	▲	■				グリーンウエーブ 他
3月どり		●	●	▲	▲	■			グリーンウエーブ 他
4月どり			●	●	▲	▲	■		グリーンジャケット 他
5月どり				●	●	▲	▲	■	グリーンジャケット 他

図 JA岩井の秋冬の作型

月	8月	9月	10月	11月	12月	品 種		
9・10月どり	●	●	▲	▲	■	グリーンジャケット 他		
11月どり		●	●	▲	▲	■	グリーンジャケット 他	
12月どり			●	●	▲	▲	■	グリーンウエーブ 他

●：播種 ▲：定植 ◡：トンネル ■：収穫期間

グリーンリーフの生産者数は約100名で、日量1000〜2000ケース（1箱4・5kg）の出荷がありますが、生育や品質にバラつきが出たり、市況価格が大きく変動したりすると、

今後の課題と戦略

トンネル+マルチ栽培なので、生育適温を維持するため、朝夕にはトンネルを開閉して換気を行います。日中にトンネル内が高温になりすぎないように注意し、夜間の保温に努めることが、良品生産のポイントです。

ため、病害虫の発生も少なく、薬剤の散布を必要最小限に抑えた、ポイント的な防除としています。

家と面積を増やして品種比較試験を継続実施したところ、やはり前年のような好結果が得られました。さらに、秋作や厳寒期（ハウス12月〜1月どり）の拡大試作においても、同様の結果が得られました。

また、葉先枯れ（チップバーン）の発生も非常に少ないことから、量販店向け、カットサラダなど加工向けの、いずれにも評価が高いのではないかと感じています。これらの結果を受け、

「グリーンジャケット」を産地へ本格導入することを決定しました。

良品生産のための栽培管理

育苗には主に200穴のセルトレイを使用し、ハウス内で30〜40日間育苗した後、定植を迎えます。

施肥については、レタス類の生育に適した土づくりが基本です。高品質有機70%の肥料を使用し、4月どりで10aあたりチッソ成分10〜16kgを目安に施します。厳寒期からの栽培のため、病害虫の発生も少なく、薬剤の散布を必要最小限に抑えた、ポイント的な防除としています。

地域概況

茨城県の南西部に位置する坂東市は、平成17年3月22日に岩井市と猿島町が合併して誕生しました。利根川をはさんで、千葉県野田市に隣接しています。

地形はおおむね平坦で、地質の大部分は猿島丘陵といわれる洪積層（黒褐色火山灰土壌）の畑地であり、沖積低地には水田地帯が開けています。1年を通して穏やかな気候風土に恵まれた、レタスとネギを柱とする露地野菜の産地です。東京まで50km圏内という地の利を生かし、首都圏および地方都市への生鮮野菜の安定供給基地として、消費者の毎日の食卓を支えています。



出荷量もそれにつられて増減してしまうのが課題となっています。

今回、当地に導入した「グリーンジャケット」は、生育のそいもよく、安定した品質で収穫することができ、出荷量の安定にもつながっています。

ほかの作型においても、品種比較試験の継続と選定、導入を進め、品質の向上と出荷量の確保に努めていきます。

最後に「㊟グリーン惚レタス」というネーミングの通り、消費者の皆さまに惚れ込んでもらえる㊟野菜としてファンを獲得し、消費者のベストパートナーを目指していきます。